

「学びに向かう力」の育成～「主体的な学び」へ導く学習指導の工夫～

平成30年度 大津町小中学校共通実践事項

8月23日(金)

(1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示 (3)家庭学習の習慣化

徳淵

7月17日(水) 中研 3年3組 国語 松本先生 題材名: ゆうすげ村の小さな旅館

(直接授業は見ていませんが、記録を基に徳淵が振り返ります)

本時の目指す姿は「試行錯誤しようとする姿」でした。

導入部分では、『ウサギの美月より』から、美月さんがウサギだと分かった。」という教師の話から、「もっと前に美月さんがウサギだと分かる所(以下「しかけ」とします)がある!」という子どもたちの発言を引き出し、「第三場面で美月がウサギだと分かる所はどこ?」というめあて(課題)が立ちました。

展開部分では、個々でしかけを探し、教師が「いくつあった?」と問いました。ここで、「0・1・2・6・7」と子どもたちの主張する数にズレができ、全体で議論する流れができました。

全体で出し合い、全部で7このしかけをまとめました。叙述に即して、ウサギだと連想できる「色白、ぽっちゃんり」を意見で述べたり、「ウサギは月にいる」というこれまでの生活の中で獲得した見方を基に読み取ったことを述べたりしました。

最後に、「しかけ」という言葉を確認し、「似ている所を探す」というまとめとなりました。

事後研での助言者から指導事項

- ①単元を通して、どんな力を付けるのかを構想することが大切。単元全体をイメージすると、1時間目はどうあるべきという授業づくりにつながる。
- ②「色白、ぽっちゃんり」で「色白だから、白い動物でつるだと思ったけど、ぽっちゃんりだからウサギかなと思った。」という子どもの発言があった。「色白、ぽっちゃんり」がしかけかどうかという見方となぜ「色白・ぽっちゃんり」がウサギとつながるのかという見方をしている。子どもに応じて、議論する時の視点を変えてみるのも良い。
- ③自然と子どもたちが本文を読む手立ても考えてほしい。(クイズなど)

松本先生、授業ありがとうございました。

